

## ルネッサンススピーチ

中村 良三

ただいま紹介いただきました中村です。紹介の通り柔道ルネッサンスの発案者であります。私がこの括動を思いつきましたのは金柔連の教育普及委員長をしていた時、また国際柔道連盟の教育理事を務めていた時、今の柔道で果たして良いのか、何か間違った方向に行っていないかと考えるようになりました。それは柔道の選手が、或るいわ応援者のマナーが悪かったり、柔道そのものが力づくや、戦術、戦法の試合中心になったりしていることに疑問を感じたからです。



そこで、これではいけない。嘉納師範が考えられた無理の無い、理にかなった正しい柔道と柔道を通じての人間教育に、一旦立ち返ることが必要だと感じました。それで私は当時全日本の強化で一緒になっていた上村先生、佐藤先生、山下先生にお話をしてこの活動の意義を理解いただき、賛同を頂いたうえ当時の嘉納行光全柔連会長にお話してこの活動のスタートを切ったわけです。

勿論最初は柔道ルネッサンスという名前もないわけで、いろいろ考えて嘉納師範の教えに立ち返る、ルネッサンス（再生）という言葉を借りることにしました。また、活動を広めるのに割りと受け入れやすいネーミングであるように感じましたので柔道ルネッサンスとなりたわけです。

柔道ルネッサンスは、全柔連の特別委員会になり講道館との合同の活動として、正式にスタートさせました。選手の礼法の指導や会場の整理、整頓、ボランティア活動などで成果が上がったと思います。その後、私が国際柔道連盟の教育理事の任務を終えたことにあわせ、自分自身のけじめとして全柔連の全ての役職をやめることにしましたが、柔道ルネッサンスは、幸いこの活動に熱い思いを持っておられた山下先生に引き継いでいただきました。

山下先生は大変熱心にその後やって頂きまして、それから全国展開になりました。全国の先生方には、大変に熱心に活動して頂いたお陰で私は、相当な成果があったと思っております。先生方には、本当に心から感謝いたしたいと思っております。それから当然、各地方にいらっしゃる先生方、そして選手の皆さんも一生懸命頑張ってくださいました。本当に心より敬意を表したいと思っております。

ルネッサンス活動というものの、私の考えは2つあります。

1つは、柔道の技術的な問題、足を取ったり、絞ったり、切ったり、逃げたりといった、そういう柔道でなんとか勝とうというようなことで「そういう柔道が本当の柔道なのか」と、やはり正しい柔道というのは、一本を取ろうとするし、取りに行くような技も理にかなった無理のない美しい技です。そういうところを目指してやらないとやはり柔道は、だんだんと飽きられてしまうのではないかと思うのです。

嘉納師範は危ない技を外したり、無理な技をやめたりしながら柔術から柔道にしたわけですから、一旦良い技に戻してはどうかなと思っていました。幸い国際柔道連盟では、効果を無くしたり、足を取ったりすることを反則にしたり、良い方向に向かっていると思います。これはやはり、上村先生、川口先生のご努力だと思います。ただちょっと心配なのは、1年間に何度もルールが変わるというのは、選手や審判は大変だなと思います。やはり、4年、オリンピック位は空けないと思っています。4年の間に色々と問題等を貯めておいて、その区切りで変えるのがベストだと思いますが、ただ、今回は良い方向に向かっていますので、これも良いのかなとも思っています。

もう1つの柱は、やはり柔道を通しての人間教育ということです。

例えば、柔道をやっている人達は、乱暴でガサツでということでは困るわけです。柔道は強いけれども、道場を離れた所でも礼儀正しく、それから弱者にも優しい、そういう柔道人になってもらいたいなと思っております。そうすることで、世の中の一般のお父さん、お母さんは方は「柔道をやっている人は立派だ、私の子供も柔道をやらせよう」という具合に思ってもらえるのではないかと考えます。それが、柔道は強いけれども、むちゃくちゃな奴らだということになれば、自分の子供に柔道をさせようとは思わないでしょう。私はそういうことを是非直してもらいたいと思っています。しかし、それもだんだんと成果が上がってきていると感じていますし、本当に今後この活動が益々盛んになって行くようにご協力をお願いしたいなと思っております。

以上、私のルネッサンスに懸ける思いであります。

どうもご静聴有難うございました。